

令和7年度庄原市教頭・事務長研修会

令和7年8月19日（火）14:00～16:35 庄原市ふれあいセンター コパリホール

今日的教育課題の解決に向けた方策や組織的な学校運営のための教頭・事務長の果たすべき役割について理解することを通して、自校の学校運営のより一層の充実と改善に資することを目的に研修会を行いました。

【講話】「学校運営協議会の充実に向けて」 庄原市教育委員会 指導係長 伊澤 知弥

学校・家庭・地域で情報、課題、目標、ビジョンの「共有」をすることが大切であり、そのためには、熟議をすることが重要となる。熟議で出た課題解決や目標達成に向けた具体的取組につなげていく。



【実践発表】「市内各小中学校の取組について」 東城小学校 教頭 寺本 佳子 総領中学校 教頭 柳原 里美

各校の特色ある取組が発表された。

児童の実態や課題を
「共有」し、「熟議」
の実施

東城小

学校運営協議会の力
を生かした生徒の発
信力の育成

総領中



【交流・協議】 「各校の学校運営協議会の状況について」

各校の取組状況を交流し、参考となる取組や実践における悩みや課題が出された。



【講話】 「地域とともにある学校づくり」 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 杉原 満治様

○「地域とは何か?」「学校と地域の関係とは何か?」を常に考えていってほしい。また、「地域に開かれた学校」とは、外部だけでなく内側にも開くイメージ（教職員の理解）も必要である。

○地域連携について、「貸し借り」のような形にならないように留意してほしい。委員と一緒にカリキュラム作りをすることで、委員の当事者意識も高まる。（府中明郷学園の地域協創カリキュラムの紹介）



【参加者の感想等】

- 実践発表から、事前準備を丁寧に行い、計画性をもった熟議の開催方法が参考になった。教頭として、委員と学校をつなぐ役割が重要だと感じた。地域の思いを聴く熟議の場を自校でもぜひ取り入れたい。
- 交流で他校の取組を知ることができたり、困り感を共有したりすることができ大変参考になった。自校の成果と課題も振り返ることができた。
- 自分自身が地域に対しての理解を深め、地域の人的・物的資源をしっかりと把握していきたい。
- 委員にはどうしてもお手間をかけてしまっているという申し訳なさがあったが、大切なことは学校と地域で子供をどのように育てていくかということなので、共通認識をもちしっかりと取り組んでいきたい。